

- (1) 築炉じん肺第2陣
(2) ●九建アスベスト
第2陣訴訟
●間質性肺炎訴訟と
(3) 自衛隊海外派兵と
反対運動
(4) 「荒木栄のうた」
が聞ける

SOLIDARITE「連帯」 ソリダリテ

建交労大牟田支部通信

(No. 47)

築炉現場の実態を納得させるには…

築炉じん肺第2陣訴訟

今回の法廷では、築炉じん肺弁護団の古谷友佳弁護士が意見陳述を行いました。

2月26日福岡高裁で、第2回期日が開廷されました。新型コロナウイルスの影響を懸念し、じん肺罹患者には傍聴の応援をご遠慮いただき、それ以外の傍聴者には大牟田支部よりマスクを配布して臨みました。この脅威の下24名の応援傍聴者が結集しました。

2月26日福岡高裁で、第2回期日が開廷されました。新型コロナウイルスの影響を懸念し、じん肺罹患者には傍聴の応援をご遠慮いただき、それ以外の傍聴者には大牟田支部よりマスクを配布して臨みました。この脅威の下24名の応援傍聴者が結集しました。



この後、裁判長から「原告側が主張する骨格は出揃っている」と捉えてよいのか?」という争点になり、①粉じん障害防止規則の立法趣旨、②作業内容やその環境などの主張の原告被告の相違について、どちらが正しいのか裁判所としては判断しづらく、③被告が知りたいなど述べられました。

この後、裁判長から「原告側が主張する骨格は出揃っている」と捉えてよいのか?」という争点になり、①粉じん障害防止規則の立法趣旨、②作業内容やその環境などの主張の原告被告の相違について、どちらが正しいのか裁判所としては判断しづらく、③被告が知りたいなど述べられました。

この後、裁判長から「原告側が主張する骨格は出揃っている」と捉えてよいのか?」という争点になり、①粉じん障害防止規則の立法趣旨、②作業内容やその環境などの主張の原告被告の相違について、どちらが正しいのか裁判所としては判断しづらく、③被告が知りたいなど述べられました。

次回の日日は、4月2日(水)13:30から第3回期日が執り行われることになりました。原告、弁護団、建交労と支援団体は全力投球で逆転判決を勝ちとり、全国からのご支援をどうか宜しくお願い致します。



次回の日日は、4月2日(水)13:30から第3回期日が執り行われることになりました。原告、弁護団、建交労と支援団体は全力投球で逆転判決を勝ちとり、全国からのご支援をどうか宜しくお願い致します。

次回の日日は、4月2日(水)13:30から第3回期日が執り行われることになりました。原告、弁護団、建交労と支援団体は全力投球で逆転判決を勝ちとり、全国からのご支援をどうか宜しくお願い致します。

次回の日日は、4月2日(水)13:30から第3回期日が執り行われることになりました。原告、弁護団、建交労と支援団体は全力投球で逆転判決を勝ちとり、全国からのご支援をどうか宜しくお願い致します。

じかたび

先日、長崎地裁での裁判傍聴の帰り、未払い賃金で企業に対して請求を行っているトラックドライバーのご自宅へ訪問しました。請求権の時効問題や団体交渉の事などを話していたら有明フェリーの最終便が微妙な時間になっていました。慌てて多比良港まで車をとばすと、なんと諫早湾干拓の潮受け堤防を走っていました。ここで思い出しました。

「宝の海よ」

1. あさりの味噌汁
湯気立ち上がり
白いご飯に海苔のせて
汐の香りもほんのりと
※今日も元氣におはようさん
ありがとうございます
有明の海よ
ありがとうございます
宝の海よ

2. 目玉はじける

ポンポコ焼きよ
塩をふりかけタイラギ焼いて
磯の香もチヨイとつけて
今日の疲れもコップ酒

3. 有明海の

むつごろうさんは
ピヨピヨコ飛び跳ね
うは貝あげまき汐を吹き
今日の夕げもにぎやかに



裁判長の胸を打つ 遺族原告の訴え

第7回期日を迎えた2月20日。福岡地裁では、多くの支援者らが集いました。今回の期日は、遺族原告の意見陳述がおこなわれました。このご遺族の陳述を聴い

九州建設アスベスト第2陣訴訟

ていて、アスベストで亡くなつたお父さんと、

そのお父さんを看病し続けてきたお母さんの苦闘、ついにはご両親を亡くしたご遺族の苦悩の日々。

この意見陳述は、裁判長の胸に届いたのではないかと思います。

本期日が終わり弁護士会館で報告集会が行われました。

本集会では、支援団体の一つである建交労として津波古書記長が登壇し、ご遺族の計り知れない苦難が裁判長の胸を打ったであろう事と、建設アスベスト訴訟が、昨年11月11日の第1陣の勝利判決を契機に世論に対する運動と認知度が向上している事、そして、私たち建交労が闘っている築炉じん肺第2陣訴訟の第2回期日での主張を大まかに語り、労災職業病に関わる全ての人たちに支援してほしい旨を語りました。

最後には、全国的な建設アスベスト訴訟が、団結して勝利を勝ち取ろう！と九州建設アスベスト訴訟支援会の土井会長が訴え、参



加者全員で「あやまれ・つぐなえ・なくせじん肺・アスベスト」の精神で団結ガンバロウで意思統一を行いました。

間質性肺炎遺族補償不支給裁判

2月25日、長崎地裁において、炭鉱や造船で働いた亡き罹患者のじん肺死を認めない、国や労働行政に対する不支給取り消し訴訟が行われました。

本法廷では、じん肺・アスベストの権威である藤井正實医師が証言台に立たれた。

本法廷では、炭鉱や造船などの複数の職歴（粉

じんばく露）で亡くなつた方々の遺族補償に対し、国と労働行政が「特発性間質性肺炎」と決めつけた事に対し、多くのじん肺・アスベスト罹患者を診て来られた藤井医師はこの病理学的な事を証言されました。

亡くなった罹患者たちの胸部X線画像やCT画像も法廷で映し出され、藤井医師に法廷で見立ててもらい、被告の主張を覆すものでした。

藤井医師は「特発性」という原因不明なものをわざわざ取り付けるのはどうかと思う。「亡くなった罹患者たちは、じん肺に罹患する可能性の高い職歴であるため、じん肺という診方をするのが極自然である」。「間質性肺炎の中でもNSIPと言う分類は、じん肺などの治り得ない病とは違いステロイド剤を用いれば病状の改善が見られるのが特徴である」。「ミックスダストは、例えば同じ炭鉱でも肺に吸着した物質が異なる（複数）場合であったり、炭鉱から

造船等への転職などで吸引したした粉じんが明らかに違う粉じんの事を言い、罹患者本人の職歴から、じん肺診査ハンドブックに示される通り職種毎の標準写真を選び比較読影してじん肺か否かを判断している」。などと証言。

方や、被告代理人からのCTに関する尋問に対し、「都度CTを撮ったとしても撮影の度にスライス位置が変わる為、粒状影か血管断面影かの区別がしにくくなることがある」とじん肺診査ハンドブックではあくまで胸部X線写真での判定が基本である」と断言された。被告からの尋問に対しても「それは何を比較して聞いておられるのか？」などあくまで冷静な証言でした。



藤井正實医師・芝浦診療所HPより

元海上自衛隊員から見た今回の海外派遣と反対デモ

2020年2月2日、海上自衛隊の護衛艦たかなみが中東派遣へ横須賀を出港、2月25日現地へ到着し26日より情報収集活動に入りました。

何事も起きないとよいのですが、アメリカ追従の安倍政権の「戦争する国づくり」へ固執で派遣され、領海を出ての自衛隊の活動には反対です。

自分は1988年から1991年、昭和から平成、東西ドイツの統合、ソ連からロシアになった時に海上自衛隊におり護衛艦に乗り組んでおりました。

この中東派遣への前に横須賀で、陸上から海上からデモが行われている風景を見て思いました。

自分がいた時も海上デモがあり、ピースボートやグリーンピースが艦の近くまで来ることが想定され、実際にボートは近づいてきましたが、その時に派遣艦のみならず、周囲の長期出港か

らやつと帰ってきた艦まで上陸止め（外出禁止）を余儀なくされ、ウォッチ（見



張り）を組み脚絆、弾帯、鉄ヘルメットに櫂の木の警棒を持って上甲板の監視をさせられたことを思い出しました。

自衛隊員は長期の航海では、艦内はピリピリムードで、その後ようやく入港したら、家族と久しぶりに会ったり、彼女に会ったり、英

気を養ったりするのですが、そんな時に上陸止めをくらったら腹が立つて腹が立つて・・・。

隊員そのものは何も悪くなく、デモによる隊員や一般の人へアピールや訴えということもわかります。

がしかし、隊員側になにか言われても、マスコミなどからインタビュをされても何か言えるわけでもなく、自衛隊員そのものには反感でしかありません。

特に高校を卒業したばかりの新隊員やその他若い隊員たちは、当時情報収集能力が低く、特に出港すると外海に出ればほぼ皆無です。

新聞もたまに数部ありますが、士官やCPO（専任海曹）らが読むくらい、後は出航前に持ち込む雑誌など。

現在は、衛星などを使っている情報など多少はあると思いますが、外海に出ればケイタイも使えませんし、乗り込む前に情報漏洩防止のため預かりとなります。

選挙の時などは、全然わからず上司に聞いても、「自

衛隊を応援しているのは自民党だけだ」と、言われればその通りに投票する。

反対運動は、制服組（自衛官）へでなく、背広組（防衛省）に重きを置いてほしい、隊員は命令を受けて行くだけで、それが仕事だから反対も唱えられないし、自衛官が反対すれば、それはシビリアンコントロールが無いことで、それこそ危険です。

デモはいいのですが、もうちょつとあり方を考えてほしい。

武装した軍隊では無く、いろんなことに対応できる自衛隊、いろんな情報を持ち、いろんな考え方ができる開かれた自衛隊。

震災、災害などでの救助活動を見て自衛隊に入った人、海が好き

な人、船が好きな人、軍隊マニアな人、アニメ好きな人・・・いろいろな人がいると思いますが、歴々と来た自民党から特に安倍政権で捻じ曲げられた憲法解釈によって、海外派兵などされないように、



野党などからも歴史の変遷上成り立ってしまった自衛隊のあるべき姿の案を出してほしいものです。（憲法を捻じ曲げては絶対ダメです。法律でできるはずです。）

（高橋）



「荒木栄のうたが聞こえる」 港健次郎監督作品

労働者作曲家：荒木栄作品を思う存分！

2月16日、だいく5階において、主催団体が「荒木栄のうたが聞こえる」港健次郎監督作品を上映した。港健次郎監督は

皇土映百人の会

大牟田出身で、この地の歴史的闘いを励まし支えた労働者作曲家・荒木栄を映画にしていた。

本主催は、今だからこそ「うたごえは平和の力」「うたごえは闘いと共に」の精神を後世に伝え残したい気持ちもあり、この上映となった。

しかも、映画は短縮版で構成され、あとは参加者全員で、荒木栄の楽曲を満喫できるようシナリオを設定していた。

この地、大牟田は「総資本対総労働」の激しい闘いがあった。闘う労働者やその家族をうたごえで励まし、労働者階級の底力を発揮させた荒木栄の楽曲と彼の人生がどんなものであったのかを知るきっかけでもあった。今、国民生活破壊への暴走を

する安倍政権を我々労働者階級がどう打破するかを今一度考える契機にもなったのではないだろうか。

会場には、ながせん（三菱長崎造船所）うたう会も参加しこの場は一気に「三池闘争」時の熱気が蘇った。



<行事予定>

3月

- 2日（月） 13：00～公共一般分会定例会
- 6日（金） 10：00～労職分会定例会
- 13日（金） 9：30～重税反対集会・大牟田文化会館（小ホール）
- 14日（土） 16：00～民間分会定例会
- 16日（月） 11：30～トンネルじん肺第6陣訴訟・東京地裁・和解期日
- 17日（火） 14：00～大牟田社保協幹事会
- 〃 18：00～大牟田地区労連幹事会
- 19日（木） 支部執行委員会
- 〃 13：00～築炉じん肺弁護団会議
- 22日（日） 福建労大牟田支部創立55周年
- 26日（木） 10：00～西日本石炭じん肺監査

4月

- 3日（金） 10：00～労職分会定例会
- 4日（土） 10：30～県本部財政検討委員会・執行委員会
- 5日（日） 西日本石炭じん肺大牟田請求団総会
（大牟田支部全体行事）
- 22日（水） 13：30～築炉じん肺訴訟福岡高裁第3回期日

健康相談会（2月末時点）

- ・石綿健康管理手帳…4名
- ・じん肺管理区分4…1名
- ・じん肺管理区分2…2名
- ・じん肺合併症決定…2名
- ・合併症申請予定…3名
- ・遺族補償決定…1名
- ・CO患者遺族補償申請…1名